アザラシを高次捕食者とする厚岸湾の食物網～アザラシ側からのアプローチ～
実績報告書

東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科
小林万里

【背景】

厚岸には、周年ゼニガタアザラシ（*Phoca vitulina stejnegeri*）が生息し、冬から春先にかけてゴマフアザラシ（*Phoca largha*）が来遊する。近年これらアザラシが個体数を増加させており、各地でアザラシによる漁業被害が深刻化している。

特に、厚岸地域には、ゼニガタアザラシが 300 頭前後生息していると考えられているが、特に近年、厚岸湾内の刺し網・小定置網を中心として漁業被害が漁業協同組合・漁業者から報告されており、問題になっている。

【目的】

そこで、厚岸湾内に来るアザラシが特定のゼニガタアザラシなのか、どれぐらいの頻度で湾内に現れるのかを知るために、アザラシを捕獲して、音波発信器やワッペンを装着し、①アザラシを捕獲した地点に受信機を設置し、発信器装着個体がこの受信器の辺りに再度現れるか、②彼らの上陸場であると考えられる大黒島で、ワッペン個体がどれぐらいの頻度で上陸しているのか、を明らかにする。

【結果および考察】

苫多に設置した受信機の情報から、苫多で捕獲された 2 個体は数回の受信記録が得られたが、門静で捕獲した 1 個体の情報は得られなかった。苫多で捕獲された赤ワッペンおよび青ワッペンの受信機記録と大黒での上陸記録の詳細を表 1 に示す。

表 1．受信機記録と大黒島での上陸記録

4/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
																×	×	×	×	×	?	×	×
																×	×	○	○	○	?	×	○

25	26	27	28	29	30	5/1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○	×	○
×	×	×	×	×	○	×	○	○	?	○	○	?	×	×	○	○	○	×	○	○	○

色付はそれぞれの色のワッペン個体の漁場での受信機データ記録あり、○×は大黒島での上陸の有無。

青ワッペン個体で、同日に受信機の記録があり、かつ大黒島での上陸が確認できた日は 3 日あり、上陸場から漁場までの最短時間は 2 時間程度であった。

以上の結果から、ゼニガタアザラシの湾内での利用海域はある程度、特定されており、上陸場から湾内へも目標をもって移動していることが示唆された。